

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	内水排除整備事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	建設部	課等名	都市・地域計画課		包含する細々目	1	8	3	3	12	4	1,653
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり											
施策	41 災害対策の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条例等						
		事業期間	12	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	松尾地区の水害が想定される区域の市民の生命と財産 昭和58年9月10号台風での浸水被害面積57.5ha 床上浸水戸数26戸 床下浸水80戸 現在の戸数 民家67戸 アパート7棟 会社等79社 合計153	過去に被災した土地 (ha)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			57.5			
		過去に被災した土地にある家屋等(戸)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			153			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	・天竜川へ流れ込む河川周辺を、洪水時の内水増加による浸水から排水ポンプにより未然に防止する ・排水ポンプ操作員の技能確立と排水稼働までの準備時間の短縮	排水ポンプ整備により排水される水量(m3/分)	18目標	90	最終目標	90
			18実績	90	19目標	90
			23目標	90	23実績	
						最終目標達成年度
	排水操作までに要する時間(分)	18目標	20	最終目標	20	
		18実績	30	19目標	20	
		23目標	20	23実績		
					最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	洪水時、天竜川が増水し流れ込む河川から周辺に浸水被害が発生したことから、地区からの要望により「ひ門」等を設置し、内水排除用に12年度から排水ポンプ車等の導入をしてきた。この事業により内水排除施設の充実と排水体制の強化を行う。 導入済みポンプ車の概要 1号車 プーム付き排水ポンプ車(平成12年度導入 30m3/分) 2号車 クレーン付き排水ポンプ車(平成12年度導入 30m3/分) 3号機 排水ポンプ設備(平成15年度配備 30m3/分)	・祝井沢ひ門の安全対策(鉄骨製橋梁設置) ・排水訓練の実施(年間3回 5.5.7月)(天竜川上流河川事務所との合同訓練を含む) ・毎月の定期操作点検(年間12回) ・排水ポンプ等の点検(10月)と車輛・機器の法定点検	訓練回数(回)	3
		・緊急配備体制の確立 ・排水訓練の実施(年間2回 5.7月) ・毎月の定期操作点検(年間12回) ・排水ポンプ等の点検(10月)と車輛・機器の法定点検 ・国土交通省及び県との連携の強化	訓練回数(回)	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,620	1,653
事業費計(A)	1,620	1,653	
人件費	正規職員所要時間	18年度 360	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,287	0
	トータルコストA+B	2,907	1,653

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	災害対策の推進	市民が災害に備えている割合(%)	現状値	40.1	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	60
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
・昭和58年水害での祝井沢川からの逆流による松尾地区での冠水及び毛賀沢周辺への冠水により工場等への被害 ・平成11年水害による毛賀沢からの浸水、国土交通省の排水ポンプ車が出動される。	・天竜川からの逆流防止のためのひ門設置 ・市で調査し、地元との協議により、排水ポンプ車を平成12年度に2台、15年度に半固定式排水ポンプ1台を導入し、排水能力を増大してきた。 ・3台の配備により、安心して暮らせる市民が増えた。 ・平成16年10月、台風23号による豪雨で、毛賀沢ひ門において排水ポンプ2台(30m3/分)を稼働、内水被害を最小限に食い止めた。 ・平成18年7月梅雨前線による豪雨で祝井沢、毛賀沢ひ門を閉鎖、市所有のポンプに加え、国交省のポンプ車2台の協力により、内水排除を実施、被害を最小限に食い止めた。	・設置台数等は下水道課が中心となり、地元自治会等と協議して配備している。 ・地元より祝井沢川ひ門の堤防にポンプ車のホースを横断させ、水防活動を効率的にすることと堤防道路を水害時でも使用できるようにする要望が出されている。 ・地元より祝井沢ひ門における操作の安全性の確保及び排水効率の向上を求められている。

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	・平成18年7月豪雨の反省により、出動体制、命令系統、健康管理等のマニュアルの見直しが必要。 ・国県との連携の強化。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	・国県との協議 ・より実践に即した訓練の実施

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	